

入選

— 高校生の部 —

「誰もがもつ美しい絆のを見つけ方」

内田絵理子さん

推し本：『転生したらスライムだった件』

著：川上泰樹 / 原作：伏瀬 /
キャラクター原案：みっつばー推したい相手：自分には味方がいなくて
ひどく苦しいと感じている人

「誰もがもつ美しい絆のを見つけ方」 内田絵理子

私は「転生したらスライムだった件」という本を、今、自分には味方がいなくてひどく苦しいと感じている人に読んでほしいです。この物語は、主人公の三上悟、三十七歳が会社の後輩を庇って通り魔に刺されて亡くなり、異世界への転生を果たして、リムル＝テンペストというスライムに生まれ変わってしまうところから始まります。たくさんの種族を助けながら、多くの事件に巻き込まれていくので、見ていて飽きません。私がこの本を紹介したいと強く思ったのは、漫画の五巻を読んだ時です。五巻では、主にオークという生物たちとの戦いについて描かれています。オークの長の名前はゲルドといい、オーク全体で問題となっている飢饉のために戦った王です。ゲルドはゲルミュッドという魔王の配下として森を侵略していきます。読んでいると、最初はなんでこんな奴に従うんだと怒りの感情を向けていました。しかし、さらに読み進めていくと、悪事に利用されていると気づいていながら、それでもその藁に縋るしかなかった王、ゲルドの苦しみが伝わってきました。また、もしも自分の周りの人が、並大抵のことでは解決できないどうしようもないことに悩まされていて、それを解決できるかもしれないと言われたら、たとえそれが間違っていようと、自分もその手を取ってしまうだろうと思いました。結果的にゲルドは敗北してしまいましたが、同胞のために戦い続けることを余儀なくさせられていたゲルドが、リムルによって解放されて本当に良かったと思います。悪夢のように荒れ果てていた世界に、美しい花が咲き誇り、木々が立ち並び、川に澄んだ水が流れるようになっていく瞬間はとても幻想的でした。あの日辿り着けなかった食料も水もある美しい世界で、涙を流し、満たされることのなかった飢えが満たされたと言ったゲルドを見ると、こちらまで涙が溢れてきました。また、解放の瞬間だけでなく、ゲルドの部下も彼の解放を願っていて、自分のためになるから仕えていたわけではないというのが感じられ、胸が熱くなります。さらに、戦いの後、ゲルドとの約束を守ってオークの罪を請け負ったリムルや、そのリムルの判断を否定することなく受け入れ、オークたちを仲間として迎え入れ

るリムルの配下たちにも感動しました。この物語を読むと、どんなに今という現実が辛くても、叫ぶことすらできないくらいに苦しくても、いつかその感情を受け止めてくれる人は現れると強く信じられます。そして、周りを見れば、案外自分の近くにも、確かに自分の幸せを願ってくれる誰かは居るんだということと、仲間や味方は絶対に居るんだということを思い出させてくれます。だから、私はこの本を、もう話す手段のほとんどない友人に会えて、未だ苦しんでいるようだったら、紹介したいです。味方ならいるから、なにかあってもきっと、仲間がいれば大丈夫だよと伝えたいと思いました。また、同様に味方がいなくて苦しい、悲しいと感じている人に読んでほしいです。この本を通じて絆の美しさを感じて、見えていないだけで自分にもそんな絆が確かにあるのだということが伝わったら嬉しいです。その他のシーンでも感動する場面はたくさんあり、バトルシーンもかっこいいので、何度読んでも、誰もが楽しめる作品だと思います。私は友人が何人かいますが、その人たちを友人と思えることにも、その人たちに友人と思って認めてもらえているということにも感謝し、この幸せをもうしばらく噛み締めていたいと、読めば読むほど改めて、何度でも感じることができました。私はあの日、この本に出会えて幸せでした。